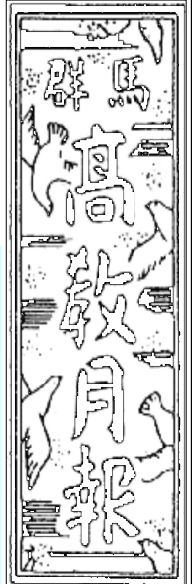


5・3憲法記念日集会

憲法9条は人間性を守り、国を超えて人類を守るもの



前橋市大手町 3-1-10
群馬高教組
027-231-2784
ghtu@educas.jp
ht tp://www.gh tu.org/

5月3日(金)、第39回憲法記念日集会在、群馬音楽センターで開催されました。上州榛名太鼓保存会による和太鼓演奏の後、ジャーナリストの伊藤千尋さんによる記念講演「世界は憲法を求めている」で千二百人を超える会場は大いに盛り上がりました。誰もが平和に生きられる社会を築くには、憲法9条の理想を実現し、日本国憲法が掲げる権利を現実化することこそが求められていると改めて実感しました。そのためにも、組合が果たすべき役割は重大です。

誰もが平和に 生きられる 社会に

第1部
ライブ
和太鼓演奏

曲目
・花吹雪 ・榛名山神囃り太鼓
・悠流 ・華羽の舞

上州榛名太鼓保存会
古来伝わる榛名山地方の和太鼓を、1985年に地元有志と旧榛名町のバックアップにより再興。「ふるさとの恵と音にになりたい」をモットーに、会員30名で年間20～25回のステージ演奏を行っている。演奏技法は、早回しと独特な振り付けを得意とし、魅せて聴かせる演奏を心掛けることで、和太鼓音楽を未来へ継承する存在でありたいと願っている。元気に楽しく賑やかに演奏します。

第2部
講演
世界は憲法9条を求めている
誰もが平和に生きられる社会を築くには
伊藤 千尋 いとう・ちひろ

ウクライナやパレスチナで侵略、虐殺が続きます。憎しみの連鎖を止めるため人類が到達した英知が憲法9条です。戦前に復帰する日本政府に代わって、私たち市民が平和を築くことができる。その方法を具体的に語ります。

1 パレスチナ、ウクライナから
ウクライナ戦争やパレスチナ民族虐殺から明らかのように、武力に武力で対抗すれば破滅するしかない。今こそ憲法9条の理念を広めなければならぬ。黒海の真珠とうたわれた港町オデーサには、ユダヤ人を救おうとしてナチスに銃殺されたウクライナ人42人を称える記念碑がある。「一人の命を救った人は世界を救った人だ」と書かれている。そのユダヤ人が今はパレスチナ人3万人以上を虐殺している。イスラエルは18歳で男女全員が徴兵され「軍隊がなければ攻撃され生きていけない」、降伏するより自決せよ、国のために死ぬのは素晴らしい」といった、戦前の日本のような軍国主義教育が行われている。対GDP比4・5%の軍事費はアメリカ3%、ロシア2・6%、ウクライナ3・2%より高く(世界平均は1・5%)、武力に頼る国が戦争に頼っている構図で、武力拡大が戦争をもたらしている。これに対し、世界で抗議デモが繰り返され、誰もが平和に生きる権利を持つ決議を出した鳥取県岩見町のような自治体もある。1928年の不戦条約で戦

争を違法化して百年の歴史が世界にはある。日本は原爆を落とされたが、仕返しはしない。憲法9条が根付いているからであり、9条の力を広める必要がある。**2** 歴史を理解せず軍拡に走る岸田政権
岸田首相は親が広島人だが本人は生粋の東京人で、「広島サギ」というべきだ。専守防衛を放棄し、日本製戦闘機の輸出など急速な軍事大国化を進めている。「平和国家」を放棄した点では、安倍元首相より質が悪い。防衛費を11兆円まで増やすというが、習近平は35兆円をアメリカ並みの百兆円まで近づけると宣言している。中国に対抗するために百兆円を目指せば、日本は生活できなくなり、国家が破綻する。今、南西諸島が軍事基地化しており、石垣島には陸自ミサイル基地が完成して500人以上の隊員がいる。奄美や宮古・与那国も同様だ。住民が確認すると「自衛隊は国を守るのが仕事で国民は管轄外自治体に聞け」と言われ、その自治体も分からないと言う。結局、軍隊は住民・市民を守らない。台湾有事に備えるというが、米中など、ちゃんと国内を治めきれ

ていない政治家が危機を叫んでいる。当の台湾では「すでに独立しているから独立宣言など必要ない。台湾人は衝突を求めていないし、日本人を巻き込みたくない。外からあれこれ言わないでほしい。」という空気が強い。**3** 憲法9条で国を守れるか
「国を守る」では国は守れない。人間を「国民」ととらえ、国境の向こうは敵だという考え方は破綻する。憲法9条は国を超えて人類を守るものであり、世界に普遍性を持ち、どこの国の人にも賛成できるものだ。戦前の協調外交で知られる幣原喜重郎こそが9条の発案者であり、押し付けではないことは憲法調査会の公文書からも明らかだ。幣原は

軍縮のためには自発的戦争放棄国の出現に期待するより他にないと考え、マッカーサーを3時間説得し、最後はマッカーサーが感激して握手までして命令してもらった形にして発案した。9条の記念碑はカナリア諸島やトルコなど世界中にあり、日本国内でも近年建設ラッシュとなっている。また、憲法24条(両性の本質的平等)をもたらしただウクライナ女性のベアテシシロタさん(等)に聞いたところ「アメリカ憲法には男女平等の規定がない。日本の方が優れているから押し付けられているとおかしい。」と言っていた。日本国憲法は、世界の憲法案のいいところを、日本人の案も取り入れて作られたのである。



武力を誇示する自衛隊基地内に平和を象徴する碑がそびえたつ

茨城県小美玉市では航空自衛隊百里基地の中に「百里憲法9条の碑」が完成し、2024年2月に550人が参加する除幕式が行われています

4 9条を活かす平和

国家コスタリカに学ぶ

コスタリカのアリアス大統領は、3つの国の内戦を終わらせたことで1987年にノーベル平和賞を受賞した。コスタリカは軍事費を教育費にまわし(予算全体の3割)、高校まで教育は無償で幼稚園でも平和教育を行っている。小学生の違憲訴訟が年3万件を超えるなど、子どもたちの意見表明も活発で、国連核兵器禁止条約を提案したのもコスタリカだ。国会は完全比例代表制で連続再選禁止、クォータ制を採用し、名簿登載順位もあるブロックが男女男女なら別のブロックが男女男女と、半数が女性となるよう工夫している。憲法で両性の平等をうたいながら、格差が先進国最大の日本とは大きく異なっている。世界を平和にするのが平和国家の役割と自認し、本来日本のやるべきことをやっているのがコスタリカだ。

5 社会を変える一人の力

9条を体現した中村哲医師は、江戸時代福岡にあった山田堰をアフガンに再現し、65万人の命を救った。1989年11月にベルリン



の壁を崩壊させたのは5人の若者の手作りプラカード「我々は前に進まなければならぬ」が発端で、ライプチヒ7万人のデモを引き起こした。その30年後にはロシアのマリナさんがテレビ局で手作りプラカード「戦争反対!このニュースはウソです。信じないでください」と訴えた。一人ひとりの行動が世の中を変えるきっかけになりうる。日本では東京8区(杉並区)で闘う女性たちが注目を集めている。2021年には野党共闘が成功し、自民党石原を破って立憲民主党の吉田晴美さんが当選した。翌年の区長選でも駅頭一人街宣で女性たちが次々と宣伝して47歳の岸本さんが当

選した。さらに昨年の区議選では、街宣した女性が立候補して合同街宣し、区議会では47議席中24名が女性となる画期的な成果を上げた。無党派女性の力が杉並を変えている。沖繩の辺野古でも、陽気でしたたかな、相手を敵と見ない座り込みの運動が続いている。自ら俳諧爺「ハイジ」と名のるおじいさんが象徴的だ。

ウクライナに続いてパレスチナの事態となれば、「戦争は避けられないのか」と思う人もいるだろうが、戦争は絶対に避けられる。戦争にならないよう平和を構築する努力が必要で、新たに考え出す必要はない。すでに日本には憲法9条という人類史上の優れモノがある。その大切さをきちんと知り、広めることで、歴史に逆行する政府に代わって、私たち自身が世界を平和にすることができると。仕方がないとあきらめる前に、できることを一つずつでもやろう。希望は、何もしないで向こうからやってくるものではない。努力してこちらからつかみ取らなければならない。

東毛メーデー報告

矢嶋正則さん(大泉分会)より

5・1メーデー集会

第95回メーデーが5月1日(水)に県内4地区(前橋・渋川・沼田・館林)で開催されました。前橋では、物価高騰を上回る賃上げと最低賃金の抜本的改善などを求めるメーデー宣言を採択し、雨の市内をデモ行進しながら「保育士や先生を増やせ」「ジェンダー平等の社会を実現しよう」などのシュプレヒコールを上げました。

世界のメーデーの起源は、1886年5月1日、アメリカ各地で「8時間は働き、8時間は休み、8時間は自由な時間で暮らすこと」を求めて35万人がストライキに立ち上がったことに起因します。1890年5月1日、再度ゼネストを構えたアメリカの労働者の闘いにヨーロッパの労働者が応え、世界的な労働者の祭典としてのメーデーが誕生しました。

日本では、1920(大正9)年5月2日に上野公園で初めて開催され、途中戦争で9年間禁止されましたが、戦後再開されて現在に至ります。労働者の闘いの歴史と伝統を持つメーデーですが、「メーデーを知らない。集会やデモ行進に参加したことがない。」という方も増えています。働いていれば困ったこと、不満なことはたくさんあるはず。労働者が団結し、交渉してストライキに立ち上がることは憲法が保障する大事な人権(社会権)です。権利を行使せずして憲法は守れません。憲法を尊重し擁護する義務を負う公務員として、その職責を果たし、ぜひ来年はみんなでメーデーに参加しましょう。

東毛メーデーが館林市民会館会議室を会場に行われました。桐生・太田地区から70名が参加しました。唄、篠笛演奏のオープニングで開始、共産党からの連帯の挨拶、馬頭琴の演奏の後、各地域・団体から訴えと活動報告がありました。

- ①福祉保育労働組合(風の子保育園)
- ②コープ労組(桐生)
- ③群中労組太田分会
- ④桐生市議 関口さん(生活保護問題)
- ⑤ロヒンギャ問題

これら挨拶や報告ではマスコミには載らないような地域・職場の多くの問題や課題、成果が報告されました。メーデーは、これらの情報を共有することが出来る良い機会であることが、改めて感じられました。

その後、ももの木保育園分会のアトラクション「合唱 プロメテウスの火」、メーデー宣言の採択とお楽しみ抽選会、「団結がんばろう」を行い終了しました。

(写真左は前橋・右は東毛メーデーの様子です)

